

基 調 講 演

高機能自閉症およびアスペルガー症候群の
学童期・思春期の発達特徴と教育的対応

杉山登志郎(あいち小児保健医療総合センター心療科部長兼保健センター長)



高機能広汎性発達障害 二次障害への対応

あいち小児保健医療総合センター
杉山登志郎



発達凸凹と発達障害

- 発達障害は多型遺伝子モデル
- 素因＋環境因で生じる
- 素因とは、生来の発達の道筋の乱れ
- 生まれながらの認知の凸凹を基盤に持つ
- 発達障害は併発することが多い
- 社会的適応が損なわれたときのみ障害となる：
発達凸凹＋適応障害＝発達障害



自閉症とは(Wingの3徴候)

- 社会性の障害
- コミュニケーションの障害
- 想像力の障害とそれに基づく行動の障害
(こだわり行動)
- 知覚過敏性の問題
- 独自の認知構造と発達の道筋を持つ

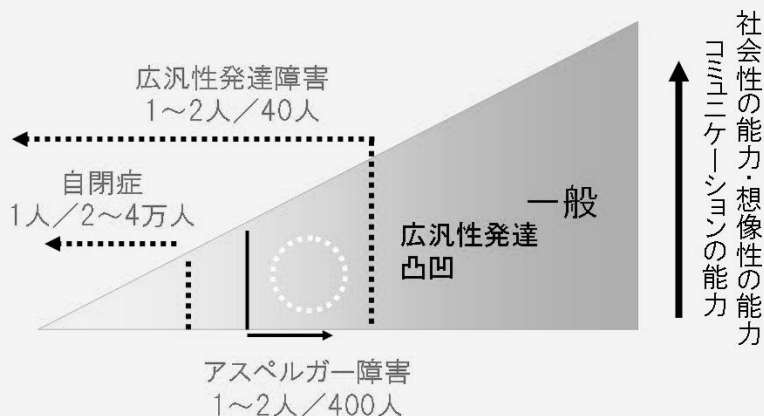


なぜこのグループへの教育が難しいか

- 社会性の障害が問題の中心にある・・・他の人の体験と自分の体験と重ならない
- 過敏性のために人との接触が楽しくない
- 全体の把握や曖昧な把握が出来ない
- 今と過去とが重なって体験される
- しばしば意識を飛ばして適応をはかる
- 認知のずれを持ったまま成長する
ex. 生き物 ほ乳類 ペット いぬ 小型犬 ジャックラッセルテリア



広汎性発達障害と広汎性発達凸凹



高機能広汎性発達障害の発達

- 幼児期: 自閉症と同様だが、弱い愛着は速やかに形成、集団教育と同時に、集団困難が目立つ、カタログ的知識が好き
- 学童期: やりたくないことはやらないというタイプのトラブル多発、集団困難、時にパニック、孤立、いじめ
- 9-10歳前後: 心の理論の獲得、社会性の向上、一方で迫害体験→被害的に
- 思春期: 自己同一性の悩み、他者の取り込み、時に被害念慮、不登校
- 成人期: 多くはそれなりに社会性が向上、時に引きこもり



アスペルガー問題(杉山,2007)

- 幼児期:乳幼児健診の未チェック、子ども虐待
- 学童期:特別支援教育システム、ギフテッド問題、不登校
- 青年期:触法行為と矯正システム、ひきこもり、就労や成人後の処遇
- 成人期:成人期の診断(いわゆる誤診例を含む)
高機能広汎性発達障害の母子例への処遇
成人期に初めて診断を受けた者への処遇



高機能広汎性発達障害に認められる精神医学的問題の一覧(N=550)

	N	%
気分障害	94	17.1
不登校	68	12.4
解離性障害	47	8.5
強迫性障害	31	5.6
統合失調症様病態	15	2.7
行為障害、犯罪	37	6.7



高機能広汎性発達障害の併存は多い

- Schizotypal ≡ Schizophrenia
Schizoid ≡ PDD
- 従来、Schizoidと考えられていた青年期の問題に高機能PDDがしばしば認められる
- 重症の選択性緘黙、巻き込み型強迫性障害、重症の摂食障害、低機能水準の境界性人格障害など



うつ病と広汎性発達障害

- 最も多い併存症で、18歳以上の対象では101名中53名(52%)にうつ病の併存が認められる：年齢が上がるにつれ増加傾向
- 家族に広汎性発達障害診断ではなくともうつ病が極めて多い(Ghaziuddin, et al., 2002; 並木ら,2006); 内的な関連を持つ・・・セロトニン系の脆弱性
- 双極性障害も多いが、うつ経過中に躁期が挿入されるパターンが多い
- 特に迫害体験がある場合には、激しい気分の上下がしばしば認められる



不登校のHFPDD

- 9割までが不登校が受診のきっかけ
- 幼児期に診断を受けた者16%のみ、41%は中学生年齢以上に初めて診断を受けている
- 最初の相談でPDDと診断を受けていない者が56%と過半数を占める
- 家族は幼児期から、対人関係の問題に気づいている
- 一部に引きこもりへの移行がある



初診時16歳男児 高機能自閉症

生育歴: 1歳半健診、3歳児健診でチェック受けるが受診せず、保育園で集団困難を指摘され受診、自閉症と診断されるが再受診せず

現病歴: 小学校通常学級へ、小学校低学年から登校しぶり、やがて不登校に、小学校5年生にて特殊学級へ、登校したりしなかったり、

中学では、ほとんど全休、養護学校高等部へ

高等部も行ったり行かなかったりで紹介され受診、

この前後から、小学校をやり直すと主張、やがて年をさかのぼると言い出す

養護卒業後、精神科のデイケアへ紹介



11歳 女兒 不登校 (PDDNOS)

家族歴: 母親が20年を越える不眠、うつ病と診断

現病歴: 幼稚園に始まる不登園、不登校

いじめもあり、3分の1から3分の2を休む

スクールカウンセラーの継続的な相談

相談を受けている時は、不登校が著しくなる

友人との関わりは著しく不得手

少しの押し出しと迎えが有効

入院治療に踏み切る

小学校6年生で初めて運動会に出席

外来治療と入院治療を組み合わせ、無事に高校進学



40歳 女性 PDDNOS(症例の母親)

家族歴: 父親は対人関係に問題がある人

生育歴: 大人しいが親しい友人が居ない、人の気持ちを
読むことができない、SEとして就労、父親と結婚

現病歴: 10代に拒食になって治療を受けた既往、自然
治癒?

20代から睡眠が取れない(平均3時間)、抑うつ、家事
が出来ない

30代後半になってパソコンのチャットに熱中、家事を捨て
てパソコンへの没頭、アルコール依存

薬物療法にて不眠は改善、抑うつも軽減したが、その
後、アルコールへの依存が止まらず精神科へ紹介



高機能広汎性発達障害母子例への 平行治療(浅井ら、2005; 杉山、2007)

- 36組のアスペ母子
- 全員、発達障害に関しては未診断
21名は初診時にうち8名は自ら
- 28名(78%)に子ども虐待！！
(身体4名、身体・心理11名、心理9名、ネ
グレクト4名)
- 並行治療によって23組(82%)に改善



症例 初診時15歳 男性 Asperger症候群

生育歴: 妹は自閉症、幼児期から孤立傾向があり、
様々なこだわりを持つが診断を受けず

現病歴: 小学校、中学校と少数の友人のみ、いじめ
を受け続ける、中学校後半から散発的不登校、
高校2年生にて母親が死去

その後、重症のうつ病に、

対人的被害念慮「悪口を毎日言われる」、高校を
中退しその後蟄居状態であったが、その後デイ
ケアに通うようになる



OCDを併存する高機能PDD

- 感情障害を約6割に併存・・・両者の内的関連を示唆
- 手洗い強迫が最も多い・・・強迫の発現型として最も生じやすいのでは
- 学齢児では学校の不適応に伴う者が最も多い
- 成人症例に未来の事象への不安を主訴とする者が存在・・・適応が必ずしも不良ではない
- 2つの類型:現在不安型強迫、未来不安型強迫



11歳 女児 高機能自閉症 現在不安型の強迫性障害

生育歴:始語の遅れあり、視線合わず呼名反応不良、自己刺激強い。2歳頃に会社のロゴマーク、4歳アニメのキャラクター、アニメのファンタジーの没頭、強い聴覚過敏、突発音、泣き声などでパニック。

現病歴:通常学級へ。同級生からいじめあり。4年生頃まで、授業中に退屈するとファンタジーに逃げる。VIQ104、PIQ115 FIQ110

小学校4年生の後半、いじめ体験のフラッシュバックで登校渋り→着席の時に繰り返し動作→玄関のドアノブを手で触るのを嫌がる→手洗い強迫へ。他児が患児の机をさわると喧嘩。長時間の手洗い。

治療者に、「同級生との接触で不快記憶のタイムスリッパ我慢していた嫌いな音に対する我慢が出来なくなる。不快な記憶が消えなくなったときに儀式や手洗いで解消する」と。fluvoxamine 25mgの服用と、不快記憶のEMDRにて、3ヶ月で強迫行動軽減。居間の隅など汚いと感じる場所が家にもあり、学校から帰宅後には裸足



症例 30歳 男性 高機能自閉症

生育歴、現病歴：3歳で自閉症と診断、小中特殊学級、養護学校高等部卒、就労する、IQ76

独語と軽度のチック、地元のソフトボールチームに22歳を過ぎた頃から周りの人と自分を比べて不安になる先のこと、自分がどうすれば前向きに生きられるのかなどメモを持って受診に、

「後悔しない人間はいないけれど、後悔が財産になることもある。後悔することは良いことか、不安になってしまう。」

「自閉症のことは気にしないで、前向きにやって行くのがよいですか。」

自問自答しながら、間をおいた通院、自分の判断で服薬。



症例 24歳 高機能自閉症 男児

生育歴：幼児期から言葉の遅れ、集団困難

小学校ではいじめを受ける

強引な家庭学習、鉄道趣味に生き甲斐

現病歴：中1にていじめっ子に付き合わされる

その後、いじめっ子の錯視、幻聴、SSRIが有効

女性全体の拒否、憎悪、ファンタジー世界への逃避

障害告知をやりなおす、その後軽快し高校進学

父親への報復宣言、父親を襲撃する

日常的近未来ファンタジーの登場

(32歳のサラリーマンで2LDKに住み、

子どもが一人いる)



高機能自閉症 男性（24歳）

家族歴、既往歴：特記すべき問題なし

現病歴：3歳にて自閉症の診断、母子通園施設、 保育園を経て通常クラスに入学

小1頃から作文に異なった生年月日の兄が登場 小5、もう1人の僕が出現

指令を受ける、彼との喧嘩、殴り合い

不本意に中学特殊学級に入学

高等養護に入学し、距離が取れるようになる

その後、大企業に就労、同僚との関係で苦勞をしているが、問題のない就勞を続けている

22歳を過ぎて抑うつに SSRIを断続的に服用

23歳を過ぎて幻聴を訴える「自分を操ろうとする奴がいて・・・」実は1年以上前から聞こえていたと言う



症例の自動書字

おいへ

おい 学校をいやすことあるう
いやなやつかいたら無視してけ
わがたが いつもチャイムあて
ないのにこいていわれるだろ！
無視しろ！二食反のときでも
どうせこうになさるぞ！
いかに言いかけても せめて
無視しろ！友達にもそう言え
イデにおいさなハリヤ
そが一番だ！いっや！
ユルクロ



高機能広汎性発達障害と解離

- ファンタジーへの没頭から解離までは、ほんの一步
- 知覚過敏を解離で防衛する
- 参加できない状況で座らされていると、意識を飛ばすことを覚えるだけ
- 多重人格例もあるが、健忘を伴わない
- 他者から借りた人格(仮面)の使用 (Williams, 1994)など、構造が異なる



初診時 14歳 男性 Asperger症候群

幼児期: 始語は1歳頃、母親を目で追わず一人遊び、保育園では孤立

小学校: 当初は孤立、3年生頃から友達を作ろうとして激しいいじめに、「目立つことは良いこと」という誤学習、委員会に立候補し、授業中に発言を繰り返す

中学校: 激しいいじめと孤立状態で受診、Asperger症候群と診断を受ける、「仲良くなるために人の言うことを聞くことが必要」という誤学習が明らかに

アスペの会へ参加、いじめっ子と対決し、さらにいじめを受ける

高校: 孤立、しかしいじめは激減、様々な心身症状

大学: 一人暮らし、趣味、バイト、学業と充実した毎日



初診時 14歳 男性 Asperger症候群その2

就職活動：不合格を繰り返す、一次を通っても面接で落ちる
「会社が何を求めているのか分からなくなってしまった」
契約社員として働き出すが、営業の仕事で実績を上げられず、
2ヶ月で失職、パニックになる
しばらく落ち込みが続く
品質管理の仕事、「障害」について自ら話し、それが問題となり失職
2交代の工場労働に派遣社員として勤務
「人がとても少ない職場で、仕事がしやすい」
自宅から通勤をし、残業もこなしている



広汎性発達障害と子ども虐待

- 子ども虐待の中で、広汎性発達障害は25%その9割が高機能群
- ごく一部に反応性愛着障害との鑑別が難しい事例があるがその様な例は極端なネグレクト症例
- 母子例において子ども虐待のリスクが非常に高くなる
- 子ども虐待は、広汎性発達障害の6.9%、高機能広汎性発達障害の9.7%
- 母子例は高機能広汎性発達障害の2.8%



広汎性発達障害とトラウマ

- 知覚過敏性による脅威的世界、不意打ち、秩序無き世界:(素因としての)保護されない自我構造
- 愛着形成の遅れ: 幼児期の発達課題が学童期後半にずれる、養育者側に強い欲求不満が生じ虐待の高リスクに
- 迫害体験: 叱責、虐待、いじめ
タイムスリップ現象: チック+フラッシュバック
 - ・強度行動障害・・・他者の存在が全て悪性の刺激になった症例
 - ・PDD系の解離・・・認知表象への憑依



過去1年間に主として外来で EMDRを実施した高機能PDD一覧

#	年齢	性別	診断	IQ	トラウマの内容
1	6	m	Au	80	学校での友人とのトラブル
2	8	f	As	92	いじめのフラッシュバック
3	11	m	Au	73	以前の抜毛していた状況
4	11	f	Au	82	苦手な男の子への過剰反応
5	12	m	Au	77	嫌いな歌の記憶
6	14	m	As	99	小6の時のいじめ
7	14	f	As	86	小学校のいじめ
8	23	m	Au	78	過去の自分のいやな記憶
9	24	m	Au	101	過去の様々なトラウマ記憶
10	29	m	As	112	小中学校で無視をされた記憶
11	32	f	NOS		祖母に嘔みつかれた
12	36	m	NOS		母親からの激しい虐待
13	38	f	NOS		父のDV、学校でのいじめ、夫の自殺
14	43	f	NOS		娘への虐待、過去の性被害



EMDRを行った高機能PDD

- 小学校年代の児童に、現在進行形のトラウマ記憶の処理を行ったもの
 - …チャンスEMDRが多い
 - 青年期の患者に、過去の迫害体験(主としていじめ)の処理が必要となり実施したもの
 - …様々なレベルの介入がある
 - 既に成人になった患者に、過去の被虐待(一部現在の加虐)への処理が必要となり実施したもの
 - …プロトコールに基づいた治療が多い
- 被虐待の既往、気分障害(特に双極性障害)の併存



EMDRを実施した高機能PDD 1 現在進行形のトラウマ記憶処理

#	年齢	性別	診断	IQ	トラウマの内容	処理の方法	効果	備考
1	6	m	Au	80	学校での友人とのトラブル	チャンスEMDR、パルサー	軽快	母親がうつ病
2	8	f	As	92	いじめのフラッシュバック	チャンスEMDR、パルサー	著効	1回でスッキリしたと述べる
3	11	m	Au	73	以前の抜毛していた状況	チャンスEMDR、タッピング	著効	抜毛あり、強迫あり
4	11	f	Au	82	苦手な男の子への過剰反応	チャンスEMDR、パルサー	軽快	母親からの心理的虐待あり
5	12	m	Au	77	嫌いな歌の記憶	チャンスEMDR、タッピング	軽快	なぜその歌が嫌なのか説明できず



症例2

8歳女児 アスペルガー障害

家族歴：母親はこだわりが強く、地域の学校ではプチ・クレーマー、教師との対立しきり

生育歴、現病歴：3歳頃発達の遅れに気付く、4歳にて高機能PDDと診断、知的に問題なく通常学級進学、

入学後しばしば不調に、聴覚過敏あり、集団行動困難、タイムスリップ有り

8歳にて、小学校でのいじめのフラッシュバックが頻発、登校を渋るようになり緊急受診、外来にてパルサーを用いたチャンスEMDRを数セット実施、笑顔になり、「スッキリした！」

母親は半信半疑であったが、その後、登校の問題なし



EMDRを実施した高機能PDD 2 過去の迫害体験(いじめ)の処理

#	年齢	性別	診断	IQ	トラウマの内容	処理の方法	効果	備考
6	14	m	As	99	小6の時のいじめ	計2回のセッション、眼球	著効	不登校になる直前に介入
7	14	f	As	86	小学校のいじめ	計10回のセッション、眼球、タッピング	著効	母親、弟もPDD入院治療実施
8	24	m	Au	78	過去の自分のいやな記憶	計2回のセッション、パルサー	軽快	多重人格あり
9	26	m	Au	101	過去の様々なトラウマ記憶	計4回のセッション、眼球	軽快	迫害的記憶→自分の非社会的行動への気付き
10	29	m	As	112	小中学校で無視をされた記憶	チャンスEMDR、タッピング	軽快	抑うつあり、フラッシュバックあり



症例6 12歳男児 アスペルガー障害

家族歴: 患児の姉も高機能広汎性発達障害

主訴: 外に出ると不良にからまれるのではないかと怯え、不登校に

初診時: 戦闘服にリュック、サングラス、サバイバルナイフとモデルガン

現病歴: 学校6年生、同級生から殴る蹴るの暴力、「殺してやる」と刃物を突きつけられ、お金を脅し取られた、家族が気づき介入、恐怖を想起、中学は私学に、町で不良中学生にからまれる、その後、抑うつ的に

外へ出るのが怖い、一方で無差別殺人の衝動

治療経過: 抑うつを伴ったPTSD、幼児期の状況を確認しアスペルガー障害と診断、不器用さや周囲の状況の判断が困難さがいじめの遠因か

患児に小6のいじめ場面を想起させながらEMDRを施行

2回のセッションで軽快、外出可能に

その後も、フォローアップ、少量の服用を継続、不登校無くなり適応状況は改善した



症例9

高機能自閉症 男性（26歳）

家族歴、既往歴：特記すべき問題なし

現病歴：3歳にて自閉症の診断、母子通園施設、保育園を経て通常クラスに入学

タイムスリップによるトラブルが保育園時代から頻発

小学校5年、押し寄せる不快記憶に圧倒され給食が食べられなくなる「昔のむかつくシナプスを切ってくれない」

小学校高学年から、パンチラへの興味、青年期になると一種のペドフィリアに、しばしば触法トラブルに、大学院卒業後就労

事件をきっかけに、トラウマ処理を実施

小学校4年生（「人間やめろ」と言われた）、高1（友人に無視された）などの記憶を扱う

自分の非社会的振る舞い（友人の悪口を言う、教師の指示を無視するなど）が、友人の無視を引き出したことを初めて想起し認識する、その後、不快記憶想起の著しい軽減



EMDRを実施した高機能PDD 3

過去の被虐待（一部加虐）への処理

#	年齢	性別	診断	トラウマの内容	処理の方法	効果	備考
11	32	f	NOS	祖母に噛みつかれた	断続的に数回のセッション、眼球、タッピング	軽快	MDIあり、被虐待、加虐あり、子どもの入院治療
12	36	m	NOS	母親からの激しい虐待	計6回のセッション、眼球、タッピング	著効	MDIあり、被虐待、加虐あり、子どもの入院治療
13	38	f	NOS	父のDV、学校でのいじめ、夫の自殺	計6回のセッション、眼球、タッピング	軽快	息子もPDD、うつ病あり、子どもの入院治療
14	43	f	NOS	娘への虐待、過去の性被害	断続的に計10回のセッション、眼球	軽快	重症の心身症＋うつ病、娘への加虐あり、本人の性被害あり、子どもの入院治療



症例12

36歳男性、PDDNOS、双極性障害

生育歴: 母親からの激しい身体的、心理的虐待、その後家を離れ結婚

現病歴: 対人的に被害的に、一方的な態度を取るなどが家庭、職場で問題になり受診、統合失調症の診断(注察感?)

子どもの問題行動で受診、PDD診断、子どもの治療過程で、虐待の既往と、躁うつが明らかに、カルテを作成

トラウマ治療を行う、計6回の眼球運動によるEMDR(一部タッピング)この前後に、フラッシュバックによる幻覚エピソードあり

4-5歳から思春期まで、母親からの暴行、おどし、父親の無視など、フラッシュバックが軽快すると、躁うつが前面に

その後、感情調整剤による薬物療法で、mood swing軽快



“Okay, now follow my finger with your eyes.”



高機能広汎性発達障害へのEMDR: まとめ

- 高機能広汎性発達障害はトラウマを受けやすい
- タイムスリップ現象として知られる独自のフラッシュバックは、様々な二次的な問題を引き起こし、一部に統合失調症の誤診も認められる
- 小学生における現在進行形のトラウマ体験、青年における過去の迫害体験、成人における虐待によるトラウマ処理という三群がある
- 高機能広汎性発達障害は、気分障害を生じやすく、さらに虐待の既往を持つ群において、後年に双極性障害に展開する例がある
- 発達障害臨床においてもトラウマへの対応が必要！



従来の精神医学・心理臨床の再検討

- 診断学体系への疑問
 - ……統合失調症から発達障害とトラウマを除くと何割が残るか
- 力動精神医学への疑問
 - 無意識とは何か？ 言い間違い、転移、取り込み、投影……少なくともその一部はフラッシュバック
 - 否認(トラウマへのおびえ)、解離(トラウマの切り離し)、自己破壊衝動(否定的認知のフラッシュバック:フロイトは最晩年トラウマ問題に気付いていたらしい)
 - 象徴性とは？ 言語機能(隠喩、換喩)そのものが象徴性を担う
 - …力動心理学から、発達障害とトラウマを除くと何が残るのか
 - ☆心理臨床に、発達障害の経験とトラウマ処理の技法が必須に



2009年10月
新刊
杉山登志郎編
「講座 子どもの
心療科」
講談社

あいち小児セン
ター心療科が総
力を挙げて執筆

長時間のご静聴ありがとうございました